



暑い夏、ドイツの平和村でも
オリンピックが開かれていた

顔に派手なペインティング
水に浮いたリングに食らいつく
並んだビンに思い切りボールをぶつける
中庭は子ども達の歓声であふれた

両腕が肘からない
地雷を手にしたから――
靴ひもを結ぼうとバランスをくずした
足の長さがちがう――
ここでは「みんなが子どもたち」
焼ける太陽の下、みな同じように輝いている

特集

イラク支援に応援を！



イラクでは最高の設備を持った病院。白血病で入院している子ども達に初めて会ったのは、1998年11月のことでした。鼻血が止まらないんです。止める薬もない。どんどん血液が失われていくのに、輸血する血液もない。おなかがパンパンにふくれても、どうしてやることもできない。ついているお母さんもつらそうでした。子どもが病気になったら、なんとか治してやりたいって思いますよね。まして、子ども達は、自分に何が起きているかわかりません。「治療してもらえないのは、どうしてなんだろう」「薬がないのはどうして？」…

そうして、黙って死んでいったんです。

—「ヒバクシャ」上映会にて 鎌仲ひとみ監督 談



61号 秋

CONTENTS

特集 イラク支援に応援を！	5
哀しみのなかにいる子どもたちをみた<鎌田實> アンマン会議報告・今後の支援	11

「ヒバクシャ」上映会を終えて<松本智世子>	13
-----------------------	----

連載随筆「貧の哲学」<宮尾彰>	16
ジーマのロシア小話	18
松本で過ごしたすばらしい時間 ＜ワシリー・ペリャコフスキー＞	20
モスクワ便り	23
サーシャのベラルーシ紹介 ＜アレクサンダー・フェドラウィチェス＞	24

美浜原発死傷事故に思う	28
もはや電力会社に原発は任せられない<三輪浩> 那珂町からのメール	35

振替用紙のメッセージから	36
J C F 募金振込口座	39
ありがとうございました	40
出会い Встреча	42
粗忽堂本舗 番外編<村石保>	48
ニュースクリップ	52
Здравствуйте! (事務局広場)	54
本の紹介 Book review	56
イラク支援報告会のお知らせ	58
事務局日誌	59

表紙写真 本橋成一

—哀しみのなかにいる子どもたちをみた—

イラクの病気の子どもを支え 平和への道を！

鎌田 實（JCF理事長）

ジャンナン医師の来松

イラクの南部の中心都市バスラにある産科小児科病院からジャンナン・カリブ・ハッサンという女医がやってきて話がしたいという。松本にある信州大学病院で小児科の小池教授と一緒に話を聞いた。

「助けてください。医師として辛い毎日を送っています。病気の子どもたちを救えないのです」

ヘジャブという布で、顔を覆っているが、目の前でたくさん子どもが死んでしまうのに、なにもしてやれない医師の、苦渋と悲しみが伝わってくる。「病院はベッドも天井も壊れたまま。ない、ない、ない物だらけです。点滴セットも、注射針も、注射薬も、飲み薬もみんな足りません」

小児がんが多発しているという。特に白血病の子どもが約七倍に増えた。

「今、私たちには希望が見えませんが、未来を失ってしまったようです」

ジャンナン先生は、何度も同じフレーズをくり返した。

「助けてください。イラクの子どもたちにも未来をください」

九十一年の湾岸戦争と昨年のイラク戦争で大量の劣化ウラン弾が使用され



信州大学で講演するジャンナン医師

た。ジャンナン先生は白血病や小児がんの増加に関係している疑いがあるという。彼女がぼくに見せてくれたデータは、科学的なデータとは言えないシロモノだった。

いつだって、環境と健康の問題は誰かの直感から始まる。現場で子どもの命に寄り添っている専門家の直感は結構大切なのだ。問題はこの直感をもとに、たくさんの人に納得してもらえ、データをどう示せるかが問われている。

チエルノブイリでヒバクシャ医療の国際支援をしてきた。十四年間の経験を積んできた。支援を始めた頃のベラルーシ共和国の医師たちの医療水準に比べれば、イラクのドクターたちの知識レベルはかなり高い。このドクターたちの能力ならば、三、四年で子どもたちの命を守る成果を出せるかもしれないと思った。だとすれば今が大切だと感じた。こうしている今も、子ども

たちがたくさん死んでいつている。子どもたちの命を守る支援は、絶望のなかにいるイラクの人々に希望を与えることにつながるかもしれないと思う。どうしたら、平和がくるか、ぼくは考えた。

「アメリカは戦争が終わったら病院を再建すると言っていました。何もしてくれません。私たちの病院への支援はどここの国からもきません。何も信じられない。フセインの時代も嫌い。でも、あの頃より、もっとひどい国になっしまいました」

イラク戦争は終結したはずなのに、イラク各地で、戦闘状態が続いている。今、病気の子どもたちへの支援が、外国から届くことで、平和の大切さをみんなが実感できるのではないかと思つた。すさんだ空気のなかでテロリストが生まれてくる。空気を変えたい。支援しようと思つた。妻のサトさんから、イラクには入らないでと釘を刺さ

れた。ヨルダンまで行くので、イラクの小児がんの中核病院のドクターたちに、隣国のヨルダンへ出てこれないか、連絡をとった。

反応がいい。四つの病院の九人の医師と輸血システムを担当している保健行政官が、ヨルダンのアンマンに集まれるという。準備はできた。

哀しみのなかにいる 子どもたちをみた

八月のお盆休みを利用して、ぼくはヨルダンに向かった。シーア派の聖地ナジャフの戦闘が始まり、四人のドクターが出国できないハブニングが起きた。アンマンの夏の光は強く、四十度を軽く越す。暑い乾燥しているので、日陰に入ると意外に過しやすい。外へ出るときは、ぼくはカフィーヤという布を買って頭に巻いている。自分で驚いた。アラブの空気にあっている。まあ、どこへ行っても溶け込んでしまう性格な

のかもしれないが…。時おり、イスラム寺院から、アザーンという祈りが拡声器を通して街中にこだまする。一日五回は礼拝するという。

イラクの小児白血病の患者二十人を受け入れて、治療していると聞いて、アンマンのキングフセインがんセンターを訪問した。骨髄移植センターもあって、高度医療が行われていた。イラクの小児がんや白血病の子どもたちが国境を越えてきていた。白血病の治療は五百万円はかかる。骨髄移植を受ければ一千万円はかかるといわれた。

「二十人に選ばれなかった子どもは大変。自動車や家財道具を売って、薬を買い、治療を受けている。家にはもう何もない。これ以上子どもに薬を買ってあげられない。助けてください」泣きぐずる親たちがいた。

通訳シーファの応援

外務省に通訳を探してもらった。シーファという美しい女性がやってきた。日本人がヨルダンへ、何しに来たんだと聞かれた。イラクの病氣の子どもを助けに来たというと、驚いた。そして喜んでくれた。

「イラクの医療費は以前から無料だったのでヨルダン人や、湾岸諸国の貧しい人たちは、イラクで病気を治してもらった時代がある。みんなが世話になったことがあります。日本人がイラクを助けるなら、ヨルダン人の私も協力したい。二万五千円の通訳料はいらないので子どもの薬を買ってください」

うれしい言葉だった。アラビア人はフレンドリーだと聞いたがなるほどなあと考えた。

イラクの医師との顔合わせパーティー

イをシーファの自宅だと提案してくれた。

「パーティーも家でやれば、安く済む。イラク人はお酒を飲まないでしょう。ホテルでのパーティーはもったいないです。家庭的なパーティーにしましょう。どうぞ、私の家を利用して。イラクの子どもたちを日本人が守ってくれるなら、私たちヨルダン人も応援しないといけません」

翌日は実家のお父さんの家へ招待された。日本人、大好きだという。アメリカ人の次に日本人は嫌われているかと心配していたが、杞憂だった。アラブ人はみんな日本人が好きだという。それでも、通訳料を支払おうとすると、どうしても受け取らないという。お金のキャッチボールをしていたら、このお金を利用してイラクから治療にアンマンに来ている子どもたちのサポートをする。友人に声をかけて、ボランティアグループをつくってくれるとい

う。ぼくたちがマスコミを通して、抱いていたアラブ人のイメージが間違っていたことに気がついた。

ステークはいらない 塩とパンを！

やっと国境を越えて来たイラクの医師たちの表情は長い戦争の連続で疲れきっていた。九十一年前の湾岸戦争前は、国は豊かで、医療レベルも高かった、と悔しそうに話す。国内の戦闘がなくなり、治安が回復すれば自分たちの力で復興ができる国なのだろう。イブラヒム医師の言葉は印象深い。

「はじめはステークはいらない。塩とパンがほしい」

なんでもほしがる姿勢は見られなかった。医療環境は劣悪だが、高価な支援よりも最低限必要なものから整えてもらいたいという。地道な印象を受けた。

「自分たちの力で、自分たちの国の



シーファさんのお家で（右から4人目がシーファさん）

子どもの命を守りたい。薬もできるだけ、国営機関のキマディアを通して調達する。足りない薬を連絡するので、すぐに送ってほしい」

今までは、薬が病院にないとき、医師たちがお金を出しあつて闇市で、薬を買って子どもに投与していたという。悪条件のなかで、医師たちは子ど



鎌田理事長のチェルノブイリ支援報告に聞き入る、イラク医師

もの命を守るために戦っていた。
「中古の医療機器でも定期的に整備して、使えるようにサポートしてくれるなら、日本から送ってほしい」局地戦が続いているために、どこの国からの支援も入ってこないという。四つの病院が必要としている教育用顕微鏡と遠心分離器と医薬品を第一陣として送ることを決めた。

あなたも

力を貸してください！

帰国するたびに、ホスピタルコンサートがあった。急にチャリティコンサートにしてくれた。西田敏行さんが突然の飛び入りで「もしもピアノが弾けたなら」を歌ってくれた。盛り上がった。たくさんのお金が集まった。イラクの四つの病院へ医療機器と医薬品を運ぶ、ルートはできた。本物の人道支援とはなにかを考えていきたい。

たすけてください。今、イラクの病

気の子どもたちを支えてあげることが必ず、平和への道につながると信じています。子どもたちが機関銃や劣化ウラン弾に打たれる。地雷で足を吹き飛ばされる。たくさんの子どもが白血病になった。先天性奇形の子どもが、生まれる。流産も多い。若いお母さんたちは子どもを生むことを怖れるようになった。それでも、いろいろなハードルを乗り越えて、子どもが生まれる。君は愛されるために生まれたんだよとイラクの子どもたちにも声をかけてあげたい。宗教や言葉や歴史の違いを超えて、人間は愛したり、愛されたりすることができはずだ。うらみの連鎖や暴力の連鎖やテロリストを生み出す連鎖を断ち切るために、一人ひとりの子どもたちが、愛されていることを実感できることが大切なんだ。

たすけてください。あなたの応援を待っています。本物の世界の平和のために。



◎イラク支援振込口座

郵便振替口座

005200081078

加入者名

JCF／イラク支援

◆アンマン会議報告・今後の支援◆

8月11日・12日、ヨルダンの首都アンマン、サンディ・パレス・ホテルにて、バグダッドの子ども福祉教育病院・セントラル教育病院、バスラのアルサドル教育病院から6人の医師が参加し、ヨルダンのキングフセインがんセンターで研修中の4人の医師も加わって、イラク医療支援会議を行った。

各病院からは、91年以前と以後の白血病の患者数、治療成績、必要な医薬品と医療機器について、報告された。全体として統計処理されたデータではないが、各病院とも91年を境に、急性リンパ性白血病が急激に増えていた。免疫能の異常からか、家族がんの集中発生や一人の患者の重複発生が報告された。しかし、それに対して、ベッド数は少なく、医薬品は足りない。機器も古いものをそのまま使っていることがわかった。

日本からは、鎌田理事長をはじめ、関西医科大学小児科の中野崇秀医師、メディカルエンジニアの廣浦学さんが、医療従事者として参加した。中野先生は、白血病治療について、イラクの医師たちと意見交換した。廣浦さんは、チェルノブイリへの機器支援について発表し、医療機器整備について話し合った。



12日は、さまざまな観点から問題点が出され、今後の支援について検討した。

○輸血システムの構築

白血病治療には、血小板輸血が必要だ。輸血システムの問題は大きいが、白血病の子どもを助けるためには、血液成分分離器が各病院に設置できれば、かなり改善できる。抗ガン剤治療の過程で出血を防ぐために血小板輸血をサポート治療として行う。

○安定的な薬品供給

6種類の医薬品が治療に必要でも、4種類しかなく、逆効果になっているという報告もあった。連絡を丁寧に取り合い、抗ガン剤・抗生物質の供給を円滑にする。G-CSF(白血球増加因子)を日本の企業に寄付を依頼し送る。

○感染症対策

HIVやB型肝炎、C型肝炎の検査ができるよう検査キットを支援していく。

○医療機器支援

中古機器は、スベアパーツが入らない等の問題がある。メディカルエンジニアの応援を得て、保守管理に協力していく。当面の危機を乗り越えていくためには、新古・中古機器も活用していく。

○メールでの症例検討を、両国の専門医同士で行う

イラクへの具体的な支援プログラムが参加メンバーで確認された。

日本国内では、イラクへの医療支援を目的にJMC-NE(Japan Iraq Medical Network)を立ち上げた。専門性を強め、効率的かつ継続的な支援を目指す。

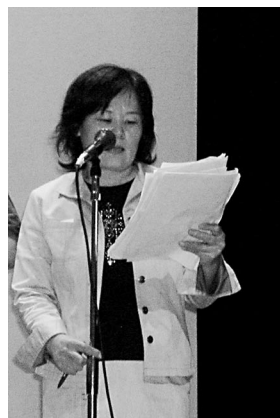
現在は、5団体で、JICFもメンバーになっている。今後、イラクへの支援を行っている団体に呼びかけ、情報の共有を図りながら、イラクの子ども達への医療支援をしていく。

日本イラク医療支援ネットワーク参加団体

- ◎アジアと結ぶ市民の会
- ◎日本国際ボランティアセンター(JVC)
- ◎日本チェルノブイリ連帯基金(JCF)
- ◎劣化ウラン廃絶キャンペーン
- ◎イラク医療支援・通販生活



「ヒバクシャ」上映会を終えて



松本智世子
「ヒバクシャ」松本上映実行委員会代表

2004年9月5日、長野県松本市中央公民館においてドキュメンタリー映画「ヒバクシャ」―世界の終わりに―の上映会が鎌仲ひとみ監督もお呼びして無事終了した。

当日は明け方からすごい雨だった。どのくらいの人達が集まっていたかわからず実行委員の間でも不安の声が上がっていた。が、10時の開演前よりちらほらと人が来られていた。2回の上映会、監督の講演会に300人程の人達が足を運んで下さった。本当に豪雨の中を有難かった。

この上映実行委員会は今年2月に発足、主婦の私を含め一主婦、一働き手、一学生など、行政企業組織にとらわれない一個人としての住民有志、徐々に集まった10数人だった。

「ヒバクシャ」の映画の存在を知らせてくれたのは、私といっしょに生活協同組合コープなので平和活動をしていた友人だった。



実行委員数人で試写を見た。そこに描かれていたのは湾岸戦争後急激に増えた白血病やがんが苦しんでいる、そして死んでいくイラクの子ども達、その家族、米国の核施設周辺で被曝し告発している農民達、そして広島長崎で被爆した人達の今の日常生活だった。私達が日頃マスコミなどから入手する

がなつてほしいと考えた結果ではないだろうか？それぞれのブレ企画には40人程の人が集まっていた。上映会数日後、5〜6歳の子どもを持つ友人から電話があった。『ヒバクシャ』の映画良かったよ、感激したし、夫にも話した。乳がんの原因は今まで食べ物の原因だと思っていた。もっと被曝のこと知りたいから資料が



鎌仲監督（上映会場に展示したイラクと日本の子どもの絵の前で）

欲しい！」と。少しずつ何かが変わるかも!!と思った瞬間だった。今まさに、行政や企業組織で社会を動かすのではなく一人一人の思いや行動が大切なのではないだろうか？住民レベルの情報発信の時代なのではないだろうか？本場にこの上映会には色々な人達の支えがあった。人々の思いと協力があつて一つの物事が成り立っていくものだと感じた。単身赴任中の私の夫も観に来てくれたのだが彼の「ご苦労様でした。雨の中マズマズの入りだったのでは!!」という携帯メールの文字に私は胸がいっぱいになってしまった。そういう自分にびつくりした。何も今まで言わなかった彼に私はいつの間にか支えられていたのだと初めて気付いた。私が活動出来たのも、家族の支えがあつたらこそ出来たのだと実感した。



最後に今回、鎌仲ひとみ監督とは親しく話をさせていただいた。イラクではがんにおかされた子どもを、家族が家財を売り払ってでも、高価な薬を手に入れ助けようとするが、その薬も与え続けることが出来ず、必死の看護の甲斐もなく死んでいく現状を話ながら、涙を流している鎌仲さんの横顔が私の脳裏から離れない。少なからず、これからの私の人生を左右する上映会になったことは確かである。

こととはかけ離れた現実事実だった。ショックでもあり恐怖心もわいてきた。実行委員会は合計12回、それぞれ個人の思いで集まっていたが「この『ヒバクシャ』の映画をより多くの人達に見てほしい、そして共に何をなすべきかを考えていきたい」という思いは、共通していたと思う。実行委員各々の



イラクに送る絵を描く子どもたち

ヒバクシャを通しての思い、実行委員に参加した自分の人生に対する姿勢など各々の気持ちを大事に毎回の実行委員会を開いた。この「ヒバクシャ」の映画には初めて字幕を付けていただいた。その作業は多くの人達の大変な労力を要した。挨拶や講演内容に、要約筆記通訳、手話通訳もお願いした。小さい子どもさんがある人には託児の準備もあった。おひとりおひとりを大事にしたかった。みんな実行委員から上がった声だった。色々な人達の思いや協力、支援があつたからこそ開催できたのだと思う。上映会に先駆けて4回のブレ企画も開いた。映画の中に出てくる「劣化ウラン」についての学習会2回。イラクの子ども達との交流のきっかけになればと思い、松本市周辺の子ども達に絵を描いてもらう企画。この企画はJCFの皆様の大なるご協力により実現



プレイベントに集まった子ども達とスタッフ

でき、この秋には子ども達の絵をイラクの方へ届けてもらうことになっているのだが：本当に感謝である。そして広島で被爆された松本在住の前座良明さんのお話を聞く企画である。より多くの人達に、自らの日常生活の中で起こっていることを、より身近に取り入れていくきっかけに、この上映会

貧の哲学

宮尾 彰

No.17

「ソーリー（すまない）」とムハンマドが苦笑しながら言った。

「これは拘束ではなく、あくまで、客人として招いているのだ」 安田純平

前号「ことばのみなもと」の末尾に私は禅の思想家・鈴木大拙の文章を引用しました。数ヶ月を経た今、日々新聞やテレビで報道される事件が闇のような暗さを増すなかで、それらを淡々と受け流すことにますます慣れてゆく自分の感性の鈍磨を痛感します。許されてはならない企てが、今や公然と強行されてゆく中、「人類の教師」の遺した言葉が切実な現実味を帯びてよみがえります。

アメリカが全く機械の世界になって行くのを気遣う者の心には、アメリカの富がすべてを物にする恐れがあることを忘れてはならぬ。

貧には、実際の生活の上において、不便なことが多い。しかし貧の後にはいつも人が動いている。この人を閑却しないようにしたい。ここに東洋文化の或る一面の意義を認めてもよい。

「茶の哲学」（一九五六年）

前号に引用した「貧しき者の欠け茶碗」の件のすぐ後にこの五行が置かれて、

わずか数頁の小論「茶の哲学」は閉じられています。大拙は若き日の十余年をアメリカに過ごし、そこで将来の伴侶を選んだ人物です。彼は愛情に満ちた魂の眼で、第二の祖国の行く末を見据えていました。本論の書かれた当時、戦後間もない経済復興のさなか、貧しさのどん底からようやく這い上がろうと喘ぐ日本に、アメリカは物質文明の謳歌をもつて夢の世界を示しました。

そして今日、大国が抱えているのは、決して豊かさを産まない富でしかありません。半世紀を経た今、あらためて「東洋文化の意義」が問われています。

富める人はかけがえのきくものを沢山所持している。即ち物を持っている。物は人でない。物には重複の可能性がある。人にはそれが無い。

象徴的なことですが、私がこの驚くべき言葉に出くわしたのが、折も折、イラクで邦人三名が拘束された翌日のことでした。イスラム教の聖職者を介して日本政府が重ねた事件グループとの交渉により、三人が無事に釈放されたことは大きな成果でした。しかし、国家としての政治的解決とは別に、三人の経験は一個人としての覚醒を私たち一人ひとりに呼びかけてはいないでしょうか？

茶は絶対の個一に徹するとき始めてその真味を味わい得ると、自分は考える。

極めて非日常的な制約と緊迫の只中であって、三人は異様な純粹さをもって「茶」の根底にある「貧の哲学」に触れていたのに違いありません。



写真提供 本橋成一



写真提供 本橋成一

ジーマの

ロシア話

◆かわいい女の子はバス停で立っている。風にひらひらと吹かれる短いスカートをとめようとしているが、成功しない。すると、見知らぬ男にキョロキョロ見つめられていることに気が付く。大変憤慨して、
「私が見ている限り、あなたは紳士ではありません！」
「僕がみている限り、あなたも紳士ではありません。」

◆サンクトーペテルブルグからモスクワへ向かう列車のコンパートメントで男性と女性の旅行客が乗っている。女性は大声で何か歌っている。男はうんざりして
「あなたはいつやめるのか？」



「私はオペラ歌手で、モスクワに公演に行きますので、練習しなければなりません。」

男性は少し考えて、服を脱ぎ始めている。女性は大変驚いて、

「あなたはなぜ服を脱ぐのか？」

「私は普通の男で、モスクワへ恋人と会いに行きますので、練習しなければなりません。」

◆若い女の人は占い師に来る。

「あなたのところへは5年前に来たとき、私には将来夫と5人の子供ができると予測しました。」

「すると？」

「今回は、夫はいつできるか、調べにきている。」

——ストレリツォフ・ドミートリさんよりのアネクドット——



АНЕКДОТ



◆Симпатичная девушка стоит на автобусной остановке. Она тщетно пытается удержать развевающуюся на ветру короткую юбку. Вдруг она видит, что ее разглядывает незнакомый мужчина.

- Я вижу, вы не джентльмен! возмущается девушка.

- А я вижу, что вы тоже не джентльмен, - отвечает тот.

◆Поезд Санкт-Петербург-Москва. Купе. Едут мужчина (м) и женщина (ж).

Женщина поет что-то во весь голос. Мужика достало.

М: Когда вы прекратите орать?!

Ж: Я оперная певица, еду на выступление в Москву, мне надо тренироваться!

Мужик, подумав начал раздеваться. Женщина удивилась.

Ж: Зачем вы раздеваетесь?!

М: Я простой мужик еду в Москву к своей любовнице, мне надо тренироваться!

◆Молодая женщина приходит к ворожее.

- Пять лет тому назад я была у вас, - говорит она, - и вы предсказали, что у меня будет муж и пятеро детей.

- Прекрасно!

- Теперь я пришла узнать, когда у меня будет муж?

松本で過ごしたすばらしい時間



浅間社会文化会館で講演するワシリー医師（中央）と通訳のイリアさん

8月17日から22日まで、ベラルーシ、ゴメリ医科大学のワシリー・ベリャコフスキー教授が来松された。

長崎のNASHIM（長崎・ヒバクシャ国際医療協力会）が毎年行っている放射能被災地からの医師招聘研修事業で来日されていた先生を、松本にお呼びし、JCFの今後のチエルノブイリ支援を円滑に図るため信州大学の視察と交流を行った。中学社会科教師研修会でのチエルノブイリ報告、信州大学医学部では、産婦人科・放射線科・中央検査室を視察した。それぞれの科でPCでシステム化した設備を見ながら「私たちは、もっとたくさんのお患者を診ています。この手でね」と言われたのが印象的でした。

また、歓迎パーティでは長崎から同行した医学部大学院生のイリヤさん、信州大学工学部研究生のサーシャさんとベラルーシの家庭料理ドラニキを焼いてくださいました。案内した浅間温泉では、なんと約3時間、温泉を満喫されたようでした。盛りだくさんの松本滞在でした。新生児支援についての小池先生と松澤先生との話し合いでは、今後、有効な協力関係の下、計画を進められそうな提案をしていたことができました。

ワシリー先生の穏和なバイタリティーが、チエルノブイリ支援に新しい力となってくださることでしょう。
（事務局長・神谷さだ子）

ベラルーシから長崎に来て27日間過ぎ、私は長野県の松本市を訪れるまたとない機会を得た。松本に訪問する前から、私は長野県はオリンピックが開かれた町であり、平均気温が長崎に比べて5度から6度ほど低く、ベラルーシの気候ととても似ているということを知っていた。

名古屋空港を出て松本への旅が始まった時から、私は非常に興奮し、長野県の気候が私のほぼ予想通りだったので嬉しかった。ベラルーシを離れてから、これほどリラックスし、快適だと感じたのは初めてだった。長い旅を終えて、なぜ私がこんなに楽しそうに興奮して見えるのか、それを私達に出会った人たちに説明するのは難しいほどだった。

私達は約3時間、バスに揺られ、山を越え、雲の中を行き、雪を冠した山々を眺めた。雲が切れたその時、やっと私達は、小さな谷あいにあつて美しい

山々に囲まれた町、松本市を目にすることができた。松本市はまったくの平地で、私はそのことがとても嬉しかった。と言うのは、長崎は小さな坂道が多すぎるからだ。私はこんなに美しい町に来られたことにとても興奮を覚えた。

ここで私は次のことを言い足さねばならない。長崎の気候は松本の気候とはまったく違って違う、ということである。長崎の暑い空気、高い湿度、そしてたくさん坂道に私達は悩まされ、一日一日を過ごすことに必死であった。松本で、私達が朝の爽やかな空気をエンジョイし、日中は信州大学での友好的で暖かな会話を満喫し、その上、長く、涼しく、楽しい夜を過ごすことができた理由は、この長崎での体験があつたからである。

私の松本での、輝かしく印象深いもののひとつは、松本の侍の城である。苦行者の様相を呈する内装と、力強

くパワフルな外見との組み合わせが非常に面白かった。私が考えるに、この城の堅固な造りとすばらしいデザインは、当時の権力者の力だけでなく、このような芸術品のひとつひとつを作り上げた、日本人の大変な労力をも表しているのではないかと思った。

しかし、私が松本で一番強い印象を受けたのは、松本であつた「人」である。神谷さんや布山さん、そしてJCFの他のメンバーのような、こんなにすば



信州蕎麦に舌鼓



モスクワ便り

私は皆さんに驚くべき国—8月末に旅行会社の仕事でスタディツアーに行ったアラブ首長国連邦—についてお話ししたいと思います。海・砂漠・その他には何もないと想像してみてください。この砂漠の真ん中に地平線、大規模なホテル、ビル、海から水を引く人工的な運河の近代的な都市があります。この町には一つとして同じ家がありません（同じ家を建設することが禁止されています）。たくさんの建物が早急に建てられました。大統領はこう言いました。「赤ん坊が生まれるのに9ヶ月が必要だ。家を建設するのにそれ以上必要だろうか?」。そして今、この国の建物の建設は9ヶ月以上かかりません。

男性は長い白い衣服をまとっています。一方、女性は長く黒い衣服です。それはこういうことです。「男性—それは太陽、女性は—その影」。エミラテスではそのように見なされています。ある女性達は頭を覆い、顔を出して歩いています。他にはただ目だけが見えます。三番目は薄い黒い布で顔を完全に覆っています。また、何人かは皮のマスクを顔に付け、眠る前にのみはずします。それは家族の宗教的階級と夫の心配によります。

アラブの男性は、財力に応じた数の妻を持つことができます。毎月、彼は妻に約5000ドルをプレゼントします。もちろん、それぞれの妻に。もし彼が一人の妻に家を買えば、当然他のみんなにも買わなければなりません。普通、それぞれの妻達は、自分の子ども達と一緒にそれぞれの家に暮らします。夫も自分の家を持っており、順番にそれぞれの家族と暮らします。

現在アラブ首長国連邦では結婚式の前に、離婚の時、妻に残される所有部分を分けておく結婚契約を結ぶようになりました。かつて、男性が妻と離婚する時には、女性は身に付けていた物以外は何も持たずに別れました。それ故、女性達は黒いはおり物の下に夫からプレゼントされた金の装飾品をすべて付けていた。離婚の時は、子ども達は、夫の元に残ります。夫は、かつての妻に子ども達に会うことを禁じることができました。しかし、アラブの女性達は従順と絶対服従で育てられ、夫の言葉は一彼女にとって法律なのです。

イリーナ・ニコラエワ(モスクワ事務局)



ワシリー医師、イリアさん、矢島君、サーシャ、アーリヤ、神谷

らしい人達に出会えたことを、私は誇りに思っている。私は、ベラルーシで血液疾患に今なお苦しんでいる子供達を手助けしている彼らの努力に、心から敬意を表したい。JCFで出会った

人たちの親切な心、もてなしの心、そしてベラルーシの子供達を助けたいと思う彼らの願いに私は感動した。彼らの誠実な心から発する愛を、私は率直に感じ取った。

松本を去り、名古屋に戻る道中、私は、私達に最後に「さようなら」を言いに来てくれた神谷さんのことを思い出していた。彼女がよく口にしていたあるひとつのロシア語を、私は思い出していた。その言葉は「バーバ」である。ロシアでは、それは「おばあちゃん」を意味する。ベラルーシの小さな村、ブジシチェ(?)村に住む、彼女の友人達について話す時、彼女はよくその言葉を使っていた。私は突然わかったのだ。このシンプルなロシア語の発音が、いかに暖かく優しい響きに満ち溢れているかを…。私は本当に感激したのだった…。

名古屋に戻る道中、我々を乗せるバスが山の頂上に辿り着いた時、私がこ

れから長野県について語る時は、いつでも松本のことを想像しながら話すであらうと思った。松本で出会ったとても素晴らしい人たちに囲まれて、私達は幸せなひと時を過ごすことができたと思う。

ワシリー・ベリャコフスキー
(ゴメリ医科大学教授)



サーシャのベラルーシ紹介



みなさん、こんにちは！
私はベラルーシから来ました。私の名前はアレクサンダー・フェダラウイチウスです。

これから「ベラルーシとチェルノブイリ」についてを、グランドゼロの連載でお伝えします。内容はベラルーシの位置、自然、文化、経済についてです。まずベラルーシの位置と自然について、説明します。

ベラルーシは東ヨーロッパにあります。ベラルーシから日本まで飛行機で11時間ぐらいかかります。ロシアとポーランドとウクライナとリトアニアとラトビアにかこまれています。



これはベラルーシの地図です。領域は6つの地方と118の地区から構成されます。207の町と2万4600の地方の地区があります。



国旗と紋章です。
ヨーロッパの野牛(bison)はベラルーシの独立シンボルです。



人口約1000万人の700万人が都市、300万人は地方に住んでいます。ベラルーシでは、100の民族が暮らし、多民族国家です。ベラルーシは単一社会の民主主義の法則によって管理されています。その基本法はベラルーシ共和国の憲法です。国家のヘッドは大統領です。



ベラルーシは、東ヨーロッパの平原の西部にあります。その領域は20万7600平方キロメートルです。ベラルーシのレリーフは、水平で上げられた山岳地方があって、主として平原です。ベラルーシの領域の3/4が平原であり、1/4が山岳です。

ベラルーシには山と海がありません。でも川や森や湖や丘がたくさんあります。ベラルーシには湖が1万ぐらいあります。一番大きい湖の名前はナロチュです。その湖のめんせきは80平方キロメートルです。



ベラルーシには川が2万ぐらいあります。中でも最も重要なものはドニエプル川とプリピャット川です。



ベラルーシは34%が森です。一番有名な木は白樺です。



これは岩ですが、ベラルーシでは山です。一番高い山の高さは345メートルです。ベラルーシにはいろいろな美しい花もあります。



ベラルーシの気候は、大陸性気候です。四季があります。冬は一番低い気温はマイナス25度ぐらいです。寒くて、雪がたくさんふります。



春です。一番きれいな季節です。夏は一番高い気温は30度ぐらいです。つゆはありませんが、ときどき雨がふります。秋はさびしい季節です。



美浜3号機は1976年12月に営業運転を始めた加圧水型軽水炉（PWR）というタイプの原子炉である。日本の発電用原子炉には別に東京電力・中部電力などが採用している沸騰水型（BWR）があり、炉心で発生する熱エネルギーからタービン・発電機への動力伝達の過程が若干異なっている。PWR型では、炉心の熱はまず燃料棒の間を流れる冷却水に伝わり蒸気発生器に運ばれる。これが一次冷却系で、圧力・温度は150気圧・300℃前後の熱水として循環している。高温ではあるが圧力が十分高く保たれていれば液体の状態である。ついで蒸気発生器における熱交換で、一次系からの熱によって二次冷却水が60気圧程度の水蒸気となって原子炉建屋からタービン建屋へと導かれ、蒸気タービンそれに

加圧水型原発のしくみと事故の概要

運動する発電機を回す。タービンを回した蒸気は復水器で（いわば三次冷却系である海水で）冷やされて熱水に戻り、給水ポンプで再び蒸気発生器に送られる。すなわち二次系はタービンへの動力伝達と同時に原子炉冷却の役割を担っている。図は二次系に重点を置いた概略系統図であるが、実際には、例えば美浜3号機では蒸気発生器は3基あって、そこからの二次系側の配管も何段階にも合流・分岐を繰り返すので、総延長数十キロもある配管の系統図は極めて複雑である。

事故は、復水器の下流にある給水加熱器と脱気器との間の、直径56センチ・肉厚1センチの炭素鋼の配管が破裂して、約10気圧・140℃の大量の熱水が一気に噴出したのである。外部は1気圧なので瞬時に気化して高温の水蒸気となってタービン建屋内に充満した。報道記事では「破断」と書かれたものが少なくないが、管の側面が約

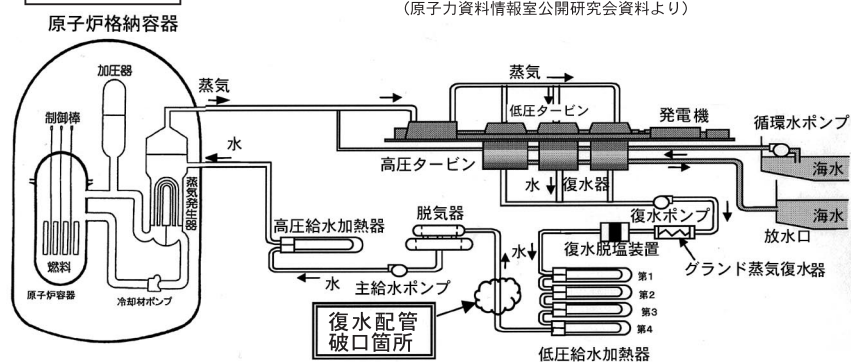
8月9日に関西電力の美浜原発3号機でまた重大な事故が起きた。直径が50センチ以上もある大口径配管が破裂して、噴出した高温の水蒸気を浴びた下請け業者の作業員が5人も犠牲になるという、国内の原子力施設の事故としては過去最悪のものである。直接の原因は、運転開始以来28年の間一度の点検すらされず放置されて腐食が進んでいた配管が圧力に耐えられなかったことと、定期検査の期間を短縮するために運転中にもかかわらず準備作業を急がせたことであって、安全軽視で起こるべくして起きた人災であることは明らかである。

3年前の2001年11月に中部電力の浜岡原発1号機で、緊急炉心冷却系の配管が水素爆発で破断し、並行して原子炉心臓部の圧力容器本体からの冷却水漏れが発見されるダブル事故が起こった。また2年前には東京電力を筆頭に、炉心のシユラウドや再循環系配管の「ヒビ割れ隠し」が発覚して、昨夏には電力供給不足が懸念される事態にもなった。その間筆者の本誌への寄稿は本稿で4回目となり、原発がいかに多くの問題を抱えているかを実感させられる。これらのケースはいずれも老朽化への対応の困難さを示すもので、実際、浜岡1号機はその後慎重な検査を理由に停止期間の延長が繰り返されて、未だに運転再開の見通しは立っていない。前稿と同じ結論を繰り返すことになるが、もはや電力会社に原発の運転は任せられない。

もはや電力会社に原発は任せられない

三輪 浩

概略系統図



復水配管破口箇所

(原子力資料情報室公開研究会資料より)



復水配管破損部（関西電力事故報告資料より）

50センチの長さにわたってちようど半周分がめくれ返る形で口を開けているので、関電は「破口事故」あるいは「破損事故」という表現を用いている。破口部の周辺では肉厚が1ミリ以下にまで減少していた。

5日後に控えた定期検査の準備のために、タービン建屋で仕事をしていた下請け企業（関電は「協力会社」と呼ぶ）の作業員が高温の水蒸気を浴びて11人が病院に運ばれた。そのうち運悪く破損箇所から十メートル前後にいた4名をはじめ5名が死亡する大事故となったが、たまたま午後の休憩時間に当たり、200人を超える作業員の大部分が現場を離れていたために、より多くの犠牲者を出さずに済んだとのことである。

破裂箇所が特定できたのは事故発生後2時間以上も経っていて、その間、中央制御室では原子炉の安定な停止状態を確保しつつ、どの箇所の制御弁の

開閉が必要かいろいろ操作を試みたようである。破裂口からの冷却水大量流出は1時間近く続いて、約800トンに及んだと関電は発表している。

二次系とはいえ安全軽視は許されない

原子炉は制御棒が挿入されて一応《停止》しても、止まるのは核分裂の連鎖反応であって、溜まった核分裂生成物（死の灰）からの崩壊熱発生は長時間にわたって続くので、停止後も十分な冷却機能を維持しなければならぬ。原発の安全確保が、①止める―核分裂を②冷やす―炉を③閉じこめる―放射能を―といわれる所以である。1979年のスリーマイル島原発の事故では、小さなトラブルが発展して冷却に失敗し、炉心の熔融・崩壊（メルtdown）に至ってしまった。

今回の事故では短時間の間に二次冷却水の大部分が失われたのであるが、

補助給水系（概略図では省略）による蒸気発生器への送水が確保できて冷やし続けることができて大事に至らずに済んだ。また、放射能をほとんど含まない二次冷却水の配管だったおかげで放射能の放出を免れたのも不幸中の幸いであった。そのせいか、一般の火力発電所でも同じように起こり得るタイプの事故として、報道などにも原発事故に特有の緊張感は希薄に感じられたが、二次系あるいはその補助系で炉心を安定な定常状態に保つことは極めて大切である。

原子力安全・保安院による事故レベルの暫定評価は、原発事故としては軽微な、国際基準の0+（ゼロプラスII安全上重要でないが、安全に影響を与え得る事象）とされたが、5名死亡という結果も考えるとこの評価には強い違和感を覚える。

原発の特長として、少量の燃料から大きな動力が得られる点が強調され

ることが多い。しかし裏を返せば、原発の危険性の最大の要因もそこにあつて、炉の中には原子爆弾（広島級）数千発分に相当するエネルギー源を抱え込んでいるのだ。一旦燃料を装荷して運転を始めれば、適正に制御できている限りは1年以上も運転を続けられるのだが、失敗は決して許されない。他の発電所ならば、トラブルが生じたときには燃料の供給を止めればそこで熱エネルギーの発生も終わるのだが。

明白な人災事故

今回の事故は、起きてみればその直接の原因や責任の所在は極めて単純でわかり易い。すなわち、機器の保守管理のハード面では、老朽化（国や電力会社はこれを「高経年化」と呼んでいる）した主要配管の腐食が進んで、強度が限界に達していたわけである。ただし、弱い部分が最終的に破れるとき

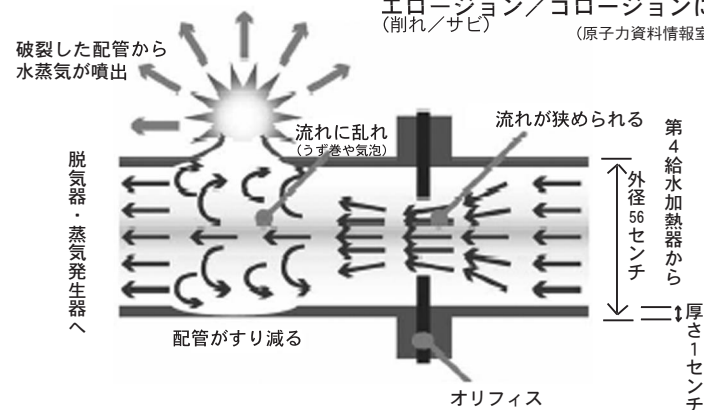
には（例えば圧力変動や衝撃力など）きつかけになる何らかの力が働いたはずなので、その点の説明は必要であらう。

炭素鋼はさびに弱いので対応が必要な箇所にはステンレス鋼が使われることが多い。実際、原子炉の圧力容器や一次冷却系の配管には後者が使われているし、二次系でも、点検の結果腐食対策として一部をステンレスに取り替えた例も少なくない。今回の破断部の腐食減肉については詳細な調査が行われたところがあるが、専門家は一致して「エロージョン／コロージョン」と呼ばれる腐食メカニズムと推定している。これは、化学工業プラントなどでもよく見られるもので、熱水との接触で内壁に生じたさびが水流で削り取られ、新しい面にまたさびが生じるという過程が絶え間なく続いて腐食が進行してしまふ。水質、温度、流速、管の屈曲や分岐、水流の乱れや異物の混入などに

よって進行速度が左右される。破断部位の少し上流側に流量測定のための絞りが設けられていて渦などが生じやすいので、当該部位はずっと以前から二次系の点検指針の中では主要点検箇所に指定されていたという。それが転記洩れや担当者間の引継ぎ不備で放置されてきたと説明されている。よく28年も保ったといっても過言ではない。

問題は、よく知られている内外の事故例や同型の原発における類似部位の点検結果から多くの関係者が要注意と承知していたにもかかわらず、緊急性が軽視され対応が後回しになっていたことにある。特に、美浜事故当時定期点検の最終段階にあつた同じ関西電力の大飯原発1号機（25年運転）で、法令上の義務ではない《自主点検》項目として検査を行った二次系給水配管についての詳細な調査結果が直前の7月に公表されて、一部で減肉が進んでいた状況やその取替えの実施と今後の対

エロージョン／コロージョンによる配管破裂
（削れ／サビ）
（原子力資料情報室公開研究会資料より）



応策が示されているし、また、高浜原発4号機（19年運転）では、当該部位の点検の結果即交換したという実績を持ちながら、美浜3号機の場合の未点検に気づいた時点で原子炉を止めるなどの対応を怠り、ようやく次の定期検査での点検計画に組み入れた、という安全軽視の責任は重大である。

作業工程管理のソフト面では、準備とはいえ、フル稼働中の原発内で定期検査の作業が始められていたことが多くの人命が失われる原因になった。運転を1日休めば1億円の損失といわれる経済性を重視するあまりに、大分以前から定検期間の短縮競争が激しくなり、短縮貢献に対して報奨金が出されるまでに過熱していた事情は見過ごせない。放射線被曝の少ないタービン建屋なら運転中でも構わないというのが電力会社では常識化した結果である。

これらからみて、この事故が安全性を軽視した結果の人災事故であるこ

とは極めて明白で、当然刑事事件として関係者の責任が問われることになる。『業務上過失』というよりも『未必の故意』としての判断が下されて然るべきである。ここで懸念されるのは、今後それを理由にして、国や関西電力がこの事故に関する情報の開示を拒むことである。

原発は安全サイズの限界を超えたシステム

非日常性の典型とも言える原子力に限らず、コスト面からのスケールメリットを求めて巨大なシステムを作れば、一旦不具合が生じるとその影響も深刻である。単に物理的な巨大化だけでなく、万一のトラブルに備えてバックアップの補助システムを組み込む必要がある。制御システムもますます複雑化して、細部に至るまでの全体を把握できる人間は誰もいないようなシステムができあがる。自分が担当する

設備・機器と長く付き合って、その隅々の部品の履歴に至るまで熟知しているといった職人気質など当然望むべくもない。

実際の保守管理体制とはいえ、総括責任を持つべき本社員は数年で異動する転勤族で、作業に当たるのは下請け孫請けの企業の非熟練技術者という構造になっていて、相互の引継ぎが円滑に行われ難い。運転でも危機管理でも、ひよつとするとプログラムミスや入力ミスが隠れているかも知れないコンピューターによる制御だけが頼りである。これまでの原子力事故をみても、大部分の例が専門家以外は初めて耳にするような部位やプロセスで見落とされた些細な欠陥がシステム全体に波及して重大な結果をもたらしている。要するに、安全なシステムの大きさには限りがあり、例えば原発はその限界をはるかに超えているのだ。

大きい故の不安を抱えている上

に、多くの原発で老朽化が進んでいる。その上、2年前の東京電力のトラブル隠蔽問題でも露呈したように、保守点検を米国の企業に任せざるを得ないほど現場の技術陣は手薄である。安全管理をチェックするはずの国の対応も後手後手にまわっている。今回の事故もまた、トップが頭を下げて回り、社内体制の改善を宣言することで収拾を図っているが、原発はもはや電力会社の管理能力を超える存在であることを示すまた一つの教訓と捉えたい。

国の原子力政策の基になる「原子力長計」改訂の時期を迎え、今夏から「新計画策定会議」の作業が急ピッチで進められている。当面、あらゆる側面ではころびが見えている核燃料サイクルが焦点になっているが、依然として、『準国産エネルギー』（元は海外の資源に依存しているのに）とか、『地球温暖化防止』（放射性廃棄物は棚に上げて）を大義名分にし、ここまでの投

資を無駄にできないといった議論が目立っている。「もんじゅ」から「美浜」までここ十年ほど相次いでいる原子力事故は、「では、それを安全に推進する能力を持っている者はいるのか」という疑問を投げかけていると思うのだ。

三輪 浩

・信州大学名誉教授・物理学
・RDZ運営委員
・市民エネルギー研究所
長野資料室運営委員



東海村からのメール

こんにちは、今日であの事故から5年たちました。我が子も小学生から中学生へと成長し、親としてどんな大人になるのか、楽しみな年頃になりました。

私は、広島の前爆慰霊祭へはじめて参加してきました。その広島の集会で、JCO健康診断の受診者の地域別資料をいただきました。事故1ヶ月後に行った健康診断の人数は344人、平成14年には240人まで減りましたが、平成16年には301人と増加しています。地域別では、驚くことに、東海村と那珂町の受診者数が同じくらいなのです。事故当時は、東海村134人・那珂町152人 平成14年東海村104人・那珂町88人、平成16年東海村123人・那珂町116人です。そして今年新たに受診した方が14名、5年たって、不安になる方もいるのです。年齢別にしますと、平成16年時、

東海村	乳幼児	1	小中学生	6	15～17歳	1	18歳以上	115
那珂町	"	0	"	38	"	9	"	69

那珂町の小中学生の割合が、東海村の7倍近くになっています。うれしいことに、この子どもたちは、全員血液検査（リンパ球数等の検査）を受けていました。この検査はとても意味があり、子どもたちの身体の記録を保存していくことが出来ます。

来年の検査があるかどうか、連絡がこなければ分からないという状況の中で、親が子供にしてあげられることは何か…を考えています。

こここのところの原子力発電所の事故と、その管理の甘さ、無責任さを見せつけられて、とても原子力発電所をこのままにしておいては、いけないと思いました。このことは、多くの人達が思っていることでもあるでしょう。

茨城県里美村では、自治体が風力発電所・水力発電所などのエコエネルギーに進んで参加し、活動もしています。私も、もっと多くの自治体に広がるように努力していきたいと思います。（笹田 海）

振替用紙のメッセージから



◎白夜ツアーは、重い感動をもたらしてくれました。旅のために用意したお金が余りましたので、少しづつですがそれぞれにお役立て頂けると幸いです。

(長野県)

◎いつも鎌田先生のご本やテレビ等で元気をいただいています。いろいろ感謝を申し上げ、少しお役に立てて下さい。どのコースでも…。

(千葉県)

◎息子に頼まれて少しですがお役立て下さいとのことです。

(千葉県)

◎お役立てください。

(埼玉県)

◎少しでもお役に立てればと思います。

(京都府)

◎永井賞受賞おめでとうございます。今後のお働きにも期待しています。

(石川県)

◎いつものように少額ですがお許し下さい。

(大阪府)

◎ささやかですが私の出来ることで支援したいと思います。あつくになります

(長野県)

◎お元気です…。

◎少額で申し訳ないですがお送りします。

(大阪府)

◎憲法9条が世界の声になる日を夢見しています。

(長野県)

◎STOP浜岡原発、飛騨でもこの運動が広がっています、リーフレットありがとうございました。

(岐阜県)

◎暑さに負けないでがんばってください。

(長野県)

◎少しですがお役に立てれば幸いです。

(東京都)

◎頑張ってください。万民の幸福を！

(岐阜県)

◎スタッフの皆様、お疲れさま！グラ

ンドゼロの中の子どもの瞳の愛らしさ…清らかさ…。

(沖縄県)

◎イラクへの医療支援の実現のために、今後もJCFの活動を応援してゆきたいと、思っています。

(長野県)

◎イラク戦争の光景をみるにつけ、私たちは権力にいつも簡単にふみつぶされてしまう「普通の人々」の「小さな

幸せ」を守らねばならないと思います。

(長野県)

◎雪とパインアップルを読みました。私も病と向き合っています。世界中の子供達の平和を願ってわずかですが。

(長野県)

◎全ての子ども達に学びの場を!!ささやかなカンパですみません。

(京都府)

◎朝日の全面広告で知った高齢、年金生活者の寸志です。ユニセフ、医師団などで気まぐれ一般寄附です。

(東京都)

◎ごぶさたでした。横浜は連日35度。松本はいかがですか。事務局の皆様ご自愛下さい。

(神奈川県)

◎「グランドゼロ」いつも有り難うございます。いろんなことを教えられ、考えさせられています。

(長野県)

◎わずかですが子供達のお手伝いになればと思います。

(京都府)

◎笑顔の向こうの苦しみに対して多く

の救いがありますように。

(京都府)

◎少額ですが、ずっと続けていけるように、がんばりたいです。

(神奈川県)

◎ごぶさたしてましたが、また少し送金します。JCFはいくつもの貴い死の悲しみを胸に秘めて着々と活動を続けていらして、頭が下がります。

(東京都)

◎グランドゼロが届くたび、日々の忙しさに忘れがちになるチエルノブイリの人々のことを思います。

(長野県)

◎鎌田先生のテレビ、ラジオでいろいろ教えていただいております。今度イラクの子供達へのご支援もなさるとか。どうぞ皆さまお身体大切にしてお励み下さいませ。

(千葉県)

◎8月6日、広島平和記念式典をテレビで観てから少しばかりのお金を振り込みに来ました。秋葉広島市長のことは心を置いて、大きなモノの動きを注意深く見てゆこうと思っています。

(長野県)

10 ドリームズ 9 振込口座

A コース	医師の研修支援
B コース	小児白血病支援
C コース	院内学級サポート
郵便振替口座番号	00570-6-34568
加入者名	チェルノブイリ(10)ドリーム9

10 ドリームズへの寄付はおいくらでも構いません。

応援して下さった方には、現地の病院の子どもたちからクリスマスカードが届きます。

J C F 会費振込口座

賛助会費	5,000 円
特別賛助会費	30,000 円
事務局ガンバレ会費	10,000 円
郵便振替口座番号	00560-5-43020
加入者名	日本チェルノブイリ連帯基金

* 会費・寄付の入金時には入金確認の礼状はがきを差し上げます。
はがき不要の方は振り込み用紙の通信欄でご連絡下さい。また領収書の必要な方もその旨お書き下さい。

J C F / イラク支援振込口座

まず一步を白血病治療の血小板の成分輸血ができるように、輸血システムを整備していきます。みなさんからのご協力をお願いいたします。

郵便振替口座番号	00520-0-81078
加入者名	J C F / イラク支援

◆支援目標◆

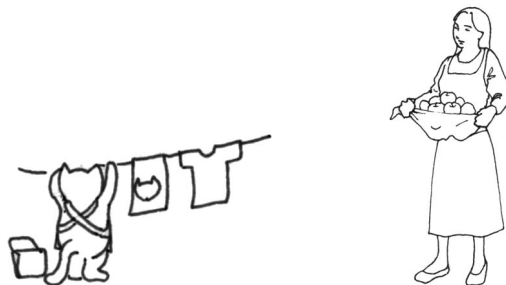
- 血液成分分離器と振とう機 5 台
- 抗ガン剤・抗生物質

カンパが集まり次第、年内にも購入して下記の病院に届けます。

バグダッド : 子ども福祉教育病院・セントラル教育病院
バスラ : アルーサドル教育病院・バスラ産科小児科病院
モスル : アルーサラム総合病院

◎がんばって下さい。(奈良県)
◎ほんの少しで申し訳ありません、応援しています。(東京都)
◎子供は世界の宝、地球の宝です。世界中が平和になり、子供達を世界で守ることが出来るよう、医療が安心して受けられる地球であるように願います。(長崎県)
◎神谷さんの新聞の紹介記事読みました。読者としてうれしかったです。つるがの原発事故のニュースに震撼させられました。電気のない生活は考えられませんが、何とかエアコン使わずに酷暑をしのんでいます。(石川県)
◎元気で夏を迎えましたので、カンパします。どうぞ健康に留意してご活躍ください。(東京都)
◎グランドゼロいつもありがとうございます。少額ですが。コースおまかせ致します。(長野県)
◎わずかですがお役立て下さい。(東京都)
◎少ないのですが、お役立て下さい。(千葉県)
◎わずかですがチェルノブイリの子供達への思いをたくします。よろしくお願い致します。(兵庫県)
◎亡夫の遺志を生かしたく、貴団体の活動に共感し寄附させていただきますのでよろしく願います。(東京都)
◎「子供」題材にした作品を作っています。少し利益が出たのでベラルーシの子供達にお願いします。お役立て下さい。(東京都)
◎苦しんでいる人たちの事が、他人事とは思えません。少ない金額ですが、一人でも多くの人たちの助けになればと思います。(新潟県)
◎少額ですが役に立てばと思います。(長野県)
◎今年の3月に主人をガンで亡くしました。イラクの子供達が少しでも病気が良くなりますように、少しづつ分

割で送金させていただきたいと思っています。お金だけでは解決できないと思いますが、自分に何ができるか考えていきたいと思っています。(千葉県)



この会員さん訪問の連載について説明するために持参した、最初の訪問記事が掲載されたグラントゼロ50号の会員さん訪問のページを開くと「あら、これマー君と大谷さんじゃな

いスタッフの笑顔は、何となく『ちしゃネコ』さんに似てました。壁には木島さんが描いた独特のタッチの子どもの絵と人形がずらりと並んで知草ワールド。お話を聞くまえからすっかり知草マジックの虜になってしまった私です。



い！」
なんと木島さんは最初に訪問した金沢の「雑木林のパンや」さんとは親しいお友達、「雑木林のパンや」さんの開店記念や10周年記念には、パンやさんで人形劇を上演していて、大谷さんの息子さんのマー君も、木島さんの人形劇が大好きだとか、そこから嵐のようなお話が始まりました。会員さん訪問をする度に、JCFに繋がる縁の不思議さに出会います。

私は大学生の頃から人形劇を始め、もうかれこれ33年。大学の頃、童話を書いて、それを紙芝居にして、周囲の保育園や老人施設を回って喜ばれたのが出発点、卒業時に出版社で働く道もあったのですが、人形劇で自分の世界をつくりたくて、就職せずに人形劇の道。どこの劇団にも属さず、フリーターのハシリ、夜はホステスや流しのギターでアルバイト、カラオケの無かつ



お父さん、お母さん人形を使って
性教育人形劇

た当時、ギターで飲み屋さんのお客の歌に即興で伴奏をつけたり、いろんなことをやってお金を稼ぎ、日中のあいた時間に人形劇をして回りました。脚本も自分で書き、人形も手作り、演ずるのも一人。
特別な演劇の勉強してないし、劇団にも入ったことがないので、声も養成されたものではなく、脚本も独学です。舞台で子供とやりとりするのも実践経験だけ。ただひたすら現場を廻ったのが私の実績です。

あらゆる現場に行きました、飲み屋で酔っぱらいの前で歌を歌って人形劇



マーお婆さんの「がらくた座」

事務局に以前から気になる写真が一枚ありました。私がJCFに関わるより前1993年に、ペラルーシの子どもに歯ブラシを送ろうという、『チェルスクドリーム』という企画がありました。その時の渡航写真に小柄な女性が現地の子どもに歯磨き指導の人形劇をしているものがあります。全身から溢れる語りかけのエネルギーがまぶしいような写真です。その女性は松本を拠点に「がらくた座」という人形劇団（木島さんとスタッフ一人）で全国を巡業している木島知草さんという方だと聞きました。先日木島さんから「イラク支援」が届いたこともあって、お訪ねしてお話を聞かせていただきました。

木島さんのお宅は、月一回の入場料10円でおやつ付き人形劇「10円劇場」の舞台でもあります。玄関を入ったとたん不思議な空間に迷い込んでしまっ

たような気がしました。お家何だか変なのです。畳のような板の間のような、お部屋の続き具合もばらばらに継ぎ足した迷路のようで、不思議の国へ迷い込んだアリスになってどっちへ行けば良いのか途方に暮れてきよろきよろしていると、

「こちらへどうぞ！」

というよく通る声が奥まった部屋から聞こえます。奥の部屋の小さなテールブルのライトの下、大きな目覚まし時計の前に書き物をしているのは、あわてウサギさんならぬ知草さん。そう言えば丁寧な車を誘導をして下さった若



ペラルーシの病院の子どもの前で

をやり、自分が経営していた居酒屋では、誕生日の人が来るとその人のために即興で人形劇やってあげたりもしました。定休日には地域の子供達を飲み屋に集めて、おでんを出して10円劇場をやり、まさに生活が自分の大好きな人形劇そのものでした。

小学校の頃から紙芝居と人形劇が大好きで、声色使って、手袋人形の人形劇をやり、みんなに見せていました。だから小学校の友達は今の私を見て、「ちーちゃんは子供の頃と同じことやっているんだね」といいます。

経営していた居酒屋で出会った連れ合いが肺を病み、私が入形劇で稼がなければ生活できない切羽詰まった状況になった時が、奉仕活動としての入形劇から、プロへの分かれ道でした。幼い娘を負って入形劇をする日々が続きました。娘が一歳半になった1986年5月1日に京都で公演があ

り、その時、京都でチェルノブイリ事故のニュースを聞きました。（事故が本当は4月26日だったと知ったのは、もっと後だったのです）その日は大雨で、ラジオが「雨の中に放射能が入っているから濡れないように」と放送していました。娘を守りたいと傘を買い、雨よけを購入したことを覚えています。

私自身はJCFができる以前から、原子力発電所を止めなくてはいけないという運動にはかかわっていましたが、松本に住むようになり、「ふれあい広場」での入形劇上演、神宮寺や「ちくま」との関わりの中から、1993年、当時JCFの事務局長だった高橋さんから声がかかって、チェルヌスクで入形劇による歯ブラシパフォーマンスをやることになったのです。

入形劇は、人形も全部古着やボタン、傘の柄とか段ボールとか、全てががら



木島さんの後ろに中秋の名月が...

くたの捨ててある素材なので、お金があまりかかりません。一人芝居なので舞台裏は畳一畳、両手を広げてこうやるだけなので、どこでもできます。チェルノブイリに行った時もゴメリの病室の子供達が寝ているベッドの前、または病室の一隅に子どもを集めて、テーブルに布を一枚ばらっとかけたら、はいできます。一人芝居の入形劇の面白さです。

私の入形劇のテーマは、マイノリティ（自分もその一部だけれど）、社会の本流から外れ、差別され、でも自分を生きようとして七転八倒してい



手袋だけで作った指人形、赤色の「赤ちゃん」黄色の「黄色ちゃん」

入形劇のテーマになりました。決して堅苦しい理論ではなく、とても日常的な風景から「赤ちゃん」「黄色ちゃん」という指人形によって語られるエイズのお話を、子ども達はしなやかに受け止めてくれます。

前に入形劇を見た子どもが、「ちーおばちゃん、エイズの黄色ちゃんは元氣？」と心配し、

「うん、大丈夫、まだ元気にしてるよ」と言う返事に、にっこりする。

エイズは特別な病気ではなくて、たくさんある病気のたったひとつにすぎない。たまたまその病気にかかった人に出会った時に、どう関われば、その人と同等の人として生きられるか、そういう視点で、子どもに向き合っていました。

ずーっと子ども達を見てきたので、子ども達の原型は全然変わっていないのが、とつてもとつても良くわかります。

子供の持つ魂は変わっていない。でも、社会全体が暴力的だったり、経済優先だったとすると、子どもがゆったりできる時間や空間が奪われ、昔の子どもにあった呼吸の緩やかさが全く失われてしまいました。子どもの気持ちの沸点異常に低くなったり高くなったりしていると感じます。だから変に引いて観ている子がいったり、入形劇が始まったとたんに、初めて生で見る入形劇に興奮して舞台上飛び込み、舞台や人形を壊してしまう子がいったりします。でも舞台や人形が壊された時、子ども達に

「どうしたらいい？」

って聞いたんです。

「直した方がいいと思う」

「じゃ、これから直していこうね」

そこからが、もう新しい舞台の始まりです。

「さあ今度はここに飛び込むと壊れるってわかったよね、じゃもう一度始



ごみを拾って ぼろを繕い人形たちと
旅をつづけて30年... 笑いや遊びを許さぬ
ような時代の波がおしよせて あつがあつと
もがきつめはり この道歩いていくんだよ
こどもの心に みえない種をまきながら
いつか かならず みえない花が咲く日を
夢みて 茨を磨いていくんだよ... かわれた傘が
魔法の杖に、涙が笑いにかわるように!
ちんぷい、ちんぷい 願って 祈って 演じます
この身ひとつが たよりのイサ事...
がらくた座 人形劇の(はじまり)
はじまりー

めるからね」

この時、子ども達は人形劇の見方を上
からの押し付けや管理ではなく、子ど
もたち自身で学び取り、後ろの席では
らはらしていたお母さん達は、ほっと
胸をなで下ろしたのです。

「この子達には、木島さんのお話
を2時間も聞くなんて力はありませ
ん、30分も保たないでしょう」

と教師が言う定時制高校で、保たな
いどころか2時間の舞台が盛り上がっ
て、最後には質問まで出たこともあり
ました。

百戦錬磨、あらゆる場所で修羅場を
踏んできた、ちーおばさんの、真骨頂
です。

ジェットコースターのような『ちーお
ばさん物語』、2時間半があつという
間に過ぎて、何だかクラクラしながら
不思議の国「がらくた座」を後にしま
した。

が、青年になって同じ舞台を見て、
「おばさん上達したじゃん!」
と褒めてくれたり、母となって子ども
を連れて来てくれたり、変化の激しさ
を競う時代に、止まっていることで初
めて見えてくるものの尊さを実感する
る、ちーおばさんです。

「がらくた座」を出ると、そこが「フ
ツの街」とフツにつながっている
ことにびっくりします。がらくた座み
たいな「変な場所」がちよこんと存在
していて、そこでちーおばさんみたい
な不思議な人が、ちゃんと暮らしてい

ることがわかって、街の
色がちよつと違って見え
ました。そして息をする
のが少し楽になったような
気がしたのです。

『がらくた』という言葉には、私た
ちのどこに残っている幼心をわくわ
くさせる懐かしい響きがあります。お
金に換算できる価値はないかもしれな
いけれど、私達の手仕事で、とんでも
なく素敵なものに変身するかもしれな
い可能性を秘めて、とぼけ顔で潜んで
いるがらくた達。

夜遅くまで、いっぱい
のお話をしてくださった
木島さん、そして美味し
いお茶や資料を用意して



娘さんが生まれた時、木島さんが放射能への思いをこめて描いた母子像。この絵の絵葉書はペラルーシの病院の子どものベッドにも届けられた。

くださった、ちしゃねこさん、あり
がとうございました。今度は1000円
払って劇場を見に行きます。ほんと
は子ども料金の10円で舞台を見たかった!
それは私がケチだからではなく、今
どき10円であのがらくた座の中に入れ
るという、そのことが途方もなく魅力
的だからです。
そしてそう思うのは、「もう一度、
子どもの頃に戻りたい」と願う、私の
儚い夢なのかもしれません。

(事務局・布山)

私の人形劇は自分が一人でやるの
で、シナリオはあるけど、あつて無い
ようなもの。その場にいる子供に即
合せて、自分のなかで伝えたいこと
を、その場にいる人とのやりとり、掛
け合い、即興で作り上げていく、コミュ
ニケーション劇、斬みたいなものです。
御自身の辛かった若い日の体験を、
表現者として凄絶に乗り越えてきた
ちーおばさんの言葉は、自分の中に悩
みを抱え込んでうずくまっている子ど
もや大人に、立ち上がって、最初の一
言を発する勇気を与えるきっかけもつ
くってきました。

「今まで誰にもいえなかったけれど、
実は私は幼い頃、性的暴力を受けました」
「私もよ」
と、舞台の後でそんな告白を互いに受
けることも、何度かあったそうです。

最近では、劇場を見て育った子ども

サントペテルブルグとの往復書簡

往信

村石保様

ザイツェワ・れい子

ご無沙汰しております。お元気でいらっしやいますか。こちらはすっかり秋模様です。今日は日中でも一五度足らずと肌寒い日になりました。インターネットで浅間山が噴火したとあり、灰をかぶったキャベツ畑の写真も見ました。ご自宅への影響はありませんか。

ロシア（特に西側）は山が少なく、火山があるのはカムチャッカの方だけで、地震もこちらでは一度も感じたことはありません。ですから地震そのものを忘れていたぐらいです。今年の日本は、猛暑やら台風やら火山の噴火と、自然の怒りが聞こえてきそうですね。

こちらはというと、テロ、テロ、テロ……の日々です。幸い、私がいるベテルブルグは比較的那いという事件が少ないのですが、今、世界のどこに居ようと、百パーセント安全な場所などないと実感しています。日本の家族や友人た

ちからも、気をつけてとは言われますが、家にじっとしているわけにもいかないし、暮らしていくためには、地下鉄にも乗らなければなりません。

いまだに少なからずいる、日本人は単一民族だという幻想にとりつかれている人々にとって、民族紛争を理解することは、とても難しいことでしょうし、想像を絶するほどに、根が深い問題だと思ひます。ただ、何時もその被害に遭うのが、何も罪もない子どもや老人、女性たちだということがやり切れません。

この事件の後、大統領は「ロシアはテロ戦争に突入した。憎きテロリストを撲滅するために、ロシアが今こそ一つになることが必要だ！」と呼びかけ、各地ではテロ撲滅集会が行われ、人々は口々に「ロシアはテロに決して屈しない！」と叫んでいます。しかし、実際に何をするのが大切か、国民の一人としてわかっていないのではないでしょううか。私も実際わかりません。

ただ、目には目を、と力でテロを押さえつけることだけで、この闘いが終わると思ひえません。

先日、日中戦争時代の「731部隊」についてのテレビドキュメンタリーが放映されました。日本では絶対に見られない映像だと思ひました。とてもショックでした……。おそらく中国人が作ったのであろう映画の始まりでは、子守唄を歌いながら人体を斧で切つて、焼却炉に投げ

復信

ザイツェワ・れい子様

村石 保

以心伝心、まさに、あなたにメールをしようとした矢先のこと、嬉しく拝読いたしました。

拙宅のある飯綱高原でも、朝夕はベテルブルグ並に気温が下がり、日毎、秋が深まりつつあります。ご心配いただいた浅間山の噴火も、今のところ小康状態を保っています。今年は日本ばかりでなく、世界中で異常気象による災厄が後を絶ちません。あなたのご指摘とおり、自然の怒りが聞こえてくるような昨今です。

ベスランの学校占拠事件のニュースには、心が痛みます。ロシアに限らず、世界中の大人たちによる理不尽な行為が、弱者、とりわけ子どもたちに過酷な犠牲を強いています。その悲劇を錦の御旗とし、プーチン大統領が対北オセチア政策の締め付けを強化することは必定。その先は、留まることのない報復の連鎖です。スターリンから、さらにレーニンのソビエト連邦設立時にまで遡らなければ、この事件の解決の糸口は、みつからないかもしれません。つまり、ロシア革命の検証です。あなたがいわれるように、歴史の真実から眼を逸らさないことが、何よりも大切なことだと思ひます。

「9・11」以後、マスコミは「テロ」という一語ですべ

てを括っています。それは「アメリカの悲劇」を画策した、米ネオコンサバティズムによるプロバガンダに、世界が便乗しているにすぎません。翻つて、世界中のアラブ系、およびアメリカに与しない（アメリカの利益にならない）少数民族が、どれほど迫害されてきたかは報道されません。彼らが何故、テロリストになったかは、知らされることもありません。

世界の趨勢は、あくまでも「アメリカの「9・11」をキーワードに展開しています。終わりのなきイラクの戦場が、それを如実に語っています。そして、世界の意識はNY・ワールド・トレード・センターから離れようとしません。「9・11」の真の姿を知るためには、われわれは、われわれが置き去りにした「9・11」以前に目を向けなければならぬはず。何よりも、パレスチナ問題を蔑ろにして、アラブ世界と非アラブ世界との究極の和平など、あり得ないと思ひます。

テロリストも、人の子であり、人の親であるはず。一人のテロリストの悲しみ（歴史）に心を寄せられないとするならば、報復の連鎖を止めることはできません。ロシア革命時に、サヴィンコフ（社会革命党）というテロリストが、ロープシンという筆名で書いた『蒼ざめた馬』という小説を読まれたことがあります。テロリストの彷徨える心情と極限的孤独を描いた秀作です。『テロリスト群像』も『黒き馬』も、テロリスト・サヴィンコフ自身の体験を通して

込む老人が映されました。

731部隊に所属した元日本人兵へのインタビューは、彼らがしたこと（その映像も含め）何もかも目をそらさずにはいられないものでした。実験にされた中国人は（ロシア人もいたようです）人じゃない、「棒つきれだ」と教えられたのです。何も感じることなく次々に実験を重ねていく若い兵士や医師たち……。何よりもショックだったのは、インタビューに答えていた元日本兵たちです。だれ一人として自分のしたことに對する苦悩や悔恨の表情が見られなかったことです。なかには、実験について、まるで楽しい思い出話をしているようにも見えたことです。

「どうして生きた人を使ったかって？そりゃあ、生きてるもんの方が役に立つに決まってるでしょ！」

「そりゃあ、今考えれば大変なことをしたけど、天皇のため、国の勝利のために自分たちはやったんだ」

今でもこの部隊で生き残った人たちは、年に一度集まり、まるで同級会をひらくかのように旅館で記念写真を撮り、戦争で亡くなった戦友のために（殺してしまった人ではなく！）建てた墓を参るのだそうです。

オリンピック前に、中国で行われたサッカーの試合で、日本に對する中国人のブーイング、国旗焼き捨てなどがあつたことも、今なら理解できるような気がします。世代を超えて伝えられてきた、日本に對する怨恨の現れではないでしょうか。

いでしょいか。

改めて、何にも知らなかった自分が恥ずかしくなりまして。私も含め、日本人は自分たちがしてきたことについて何も知らなすぎると思います。いまこそ私たちは、歴史の真実に目を据えて、しっかりと見るべきです。そういった意味では、この番組をこのタイミングで見られて、心から良かったと思いました。

何だか心が浮かない週の始まりになってしまいました。が、しなくてはならない仕事は山のようにあります。だからといって、仕事も生き方と同様に、何の心もなく、ただ右から左へと片付けるようなことだけはしたくないなと思います。

どうかお元気で。

二〇〇四年 九月六日

サントペテルブルグにて

書かれた作品です。ロシアは、再びあの時代にまで歴史を逆行しはじめたのでしょうか。いまもってロシアの大地には、無数の蒼ざめた馬が疾駆しているのでしょうか……。

世界の根源的な問題（悲劇）を目の当たりにしつつも、今夜のニュース番組がいちばん時間を割いたのは、「プロ野球のスト問題」でした。テレビ局から視聴者に向けられた、電話アンケートの「プロ野球のストは是非か？」には、瞬時にして日本中から、数万人の人々が反応を返してきます。日本人にとって、イラクで何万人が死のうが、ロシアで子供たちが何百人殺されようと、所詮は対岸の火にすぎず、先ずプロ野球が問題になってしまう国なのではないか。

これが、あなたが生を受けた、そしてぼくがいま暮らしている日本という国の紛れもない姿です。

日本の「731部隊」については、かつて森村誠一が書いた『悪魔の飽食』を読んだことがあります。中国人は「丸太」と呼ばれ、生体実験で、文字通り丸太のごとく消費されたのです。終戦時に旧日本軍によって埋められた毒ガスが、中国にはいまだに沢山残っています。戦後六十年、ご都合的に修正された歴史教科書が、まかり通っているのです。中国でのサッカー試合における日本へのブーイングは、

迫害され蔑まれた歴史への抗議のシュプレヒコールに、ぼくには聞こえてくるのです。

歴史に對する、無神経と無自覚ほど怖いものはありません。日本では近現代史を、政治的、教育的に封印してきた国です。この歴史に對する罪ははかり知れません。

この秋、石川県立美術館で、「香月泰男展（私のシベリア、そして〈私の〉地球）」が開かれます。終戦時にソ連のラグリーに抑留された旧日本兵である画家のシベリア作品展です。詩人・石原吉郎のシベリア抑留体験のエッセイ『海を流れる河』や、大岡昇平の『俘虜記』に通底する画家でもあります。是非、行ってこようと思っています。

あなたのメールが、島国にいるぼくを刺激してくれます。季節の変わり目、くれぐれもご自愛下さい。

二〇〇四年 九月七日

初秋の飯綱高原にて

ニュースクリップ

<国 内>

●長計策定会議に反原発派市民代表も

原子力委員会は、国の原子力政策の基本となる新しい原子力長期計画（長計）を策定する会議のメンバーを発表した。5人の原子力委員を含め32人の有識者からなる。有識者には原子力施設が立地する地方自治体の首長が含まれるほか、市民団体からも伴英幸・原子力資料情報室共同代表が加わっている。反原発派の市民団体が参加するのは初めて。（6月15日 共同通信）

●原子力長期計画で初会合

原子力委員会の「新計画策定会議」の初会合が東京都内で開かれた。原発から出る使用済み核燃料を再処理してウランやプルトニウムを再利用する「核燃料サイクル」と、再処理せずに埋設する「直接処分」とを、コストを含めてさまざまな観点から比較して政策を選択すべきだとの意見が相次いだ。（6月21日 共同通信）

●関電、記録捏造など3659件

関西電力は、運営する火力発電施設11カ所すべてで、2000～03年度に自主検査のデータ捏造など不正な記録処理があったと発表した。不正の総数は計3659件に上り、特に悪質な処理にかかわった10数人の処分を検討している。

（6月28日 共同通信）

●核燃料処分の試算公表せず

原発から出る使用済み核燃料を地中深く直接埋めて捨てれば、再処理方式に比べて半分以上と大幅に安くなるとの政府試算がありながら、公表していなかったことが明らかになった。核燃料サイクル見直し論議が高まるのを政府が恐れたためとみられる。（7月3日 共同通信）

●核燃試算、原子力委も隠す

原発の使用済み核燃料を再処理してリサイクルする方式と、そのまま地中に埋設処分する直接処分方式の費用を、国の原子力委員会が10年前に試算して比較したのに公表していなかったことが明らかになった。再処理は直接処分に比べ最大2.4倍費用が掛かると試算しながら、「比較は困難」として再処理を軸とする原子力長期計画をまとめていた。（7月6日 共同通信）

●核燃料処分、電力業界も費用試算

原子力発電所から出る使用済み核燃料を再処理した場合と直接処分した場合のコスト比較を、電力業界が94-95年度に行っていたことがわかった。再処理は直接処分より発電コストが36-43%高くなると試算していた。電力業界は、政府と同様に核燃料サイクルのコスト比較はしたことがないと説明していた。（7月7日 毎日新聞）

●試算隠しに批判続出

国の原子力開発利用長期計画策定会議が開かれ、使用済み核燃料を再処理せずに直接処分した場合のコスト試算を、国や電力業界が10年前に実施しながら公表しなかった問題について、委員から批判が相次いだ。「データの非公表によって、核燃料サイクル政策の是非論議が10年も遅れた」と、責任を厳しく問う声も出た。

（7月8日 毎日新聞）

●核実験降下物は従来推定の1.5倍

米国や旧ソ連などの大気圏内核実験で北半球に降下した放射性物質は、従来の推定量の約1.5倍に達することが気象庁気象研究所の青山道夫主任研究官らの分析で分かった。青山研究官は「核実験が多かった1960年代前半、北半球の人は自然からの被曝の10%に当たる放射線を降下物から受けていたとされるが、この値も見直す必要が出てくる」と話している。

（7月15日 共同通信）

●日本近海でビキニの放射能を検出

第五福竜丸が被曝した水爆実験をはじめ、1950年代の一連のビキニ核実験で周囲にまき散らされたプルトニウムが、日本近海に堆積していることを、放射線医学総合研究所の防護体系構築研究グループが確認した。人体や環境に悪影響を与えるレベルではないが、この核実験によるプルトニウムの汚染が日本周辺で確認されたのは初めて。半世紀経たずとも海流で運ばれてきていたとみられ、過去の大気圏核実験で発生した降下物の海洋での動きを示すデータとして注目される。（8月1日 共同通信）

●美浜原発蒸気噴出事故、4人死亡

9日午後3時半ごろ、営業運転中の関西電力美浜原発3号機で警報が鳴り原子炉が緊急停止した。関電が調べたところ、タービン建屋内に高温の水蒸気が充満。中で作業していた作業員11人がやけどを負い、うち4人が死亡し、2人が重体、2人が重傷。国内の原発で営業運転に伴い死者が出たのは初めてで、死者数では、99年に起きた東海村JCO臨界事故を上回る惨事となった。

（8月9日 毎日新聞）

●関電、点検の必要知りつつ放置

関西電力美浜原発死傷事故で、蒸気が噴出した配管の破損した部分は従来、対象から漏れており、関電は昨年11月に下請け会社からの指摘で点検の必要性を認識しながら、事故まで約9カ月間にわたり対処していなかったことが分かった。

（8月10日 共同通信）

●水流の乱れで配管摩耗か

関西電力美浜原発3号機の2次冷却水系配管破損事故で、破損部分の手前にある「水量測定装置」が、同原発2次冷却水系の中に計約60カ所あることが分かった。同装置は、水量を測るため配管を狭くしている部分。水流の乱れで管が摩耗し、管の厚さが薄くなる「減肉」を起こして破損したとみられる。

（8月10日 毎日新聞）

●過去に3原発で配管に穴

東京、東北、中部の3電力の3原発の4基の原子炉で過去に、減肉によって配管に穴が開き、水が漏れるという関西電力美浜原発死傷事故に似た現象が起こっていたことが分かった。漏れた配管はいずれも主配管に付属する排水配管や空気抜き管などの小口径の配管。減肉により小さな穴が開き水漏れするなどしたため、配管を交換した。

（8月18日 共同通信）

●配管検査、実績ない業者に變更

関西電力美浜原発事故で、96年からメーカーの三菱重工業に代わって配管検査を関電から請け負った日本アームは当時、原発検査の実績が全くなかったことがわかった。三菱側はその後、配管が想定以上の減肉現象を起こすのに気づいて日本アームに知らせたが、その情報は関電に正しく伝わらず、今回の事故につながった。日本アームは関電の関連会社で、業者の變更で検査費用の約3割を削減していた。（8月21日 朝日新聞）

●美浜原発事故死者5人に

関西電力美浜原発3号機の蒸気噴出事故で、全身にやけどを負い重体となっていた木内計測社員、亀窟（かめいわ）勝さんが、多臓器不全のため入院先の福井大病院で死亡した。国内の原発史上最悪の同事故による死者は5人になった。

（8月25日 共同通信）

<海 外>

●核燃料処分場建設禁止訴えを却下

ワシントンの米連邦高裁は、ネバダ州ユッカマウンテン地区に予定されている使用済み核燃料最終処分場の建設禁止を求めるネバダ州政府などの訴えを却下した。一方、同処分場での放射能封じ込め期間を1万年とした米環境保護局の基準は「違法」と判定、より長期の保存が可能になるよう計画の變更を連邦政府に命じた。

（7月10日 毎日新聞）

●ウクライナで新原子炉が稼働

1986年に史上最悪のチェルノブイリ原発事故が起きたウクライナで新しい原子炉が完成し、稼働を開始した。西部のフメリニツキー原発2号炉で、同国での原子炉の新規完成は同事故以来初めて。西欧諸国は建設に反対したが、エネルギー不足が深刻なウクライナが、2000年末にチェルノブイリ原発を全面閉鎖する代償として建設を推進

した。新原子炉はチェルノブイリ原発の黒鉛チャンネル型と異なるロシア製加圧水型軽水炉。

（8月9日 時事通信）

●ロシア、臨界前実験複数実施

ロシアのルミャンツェフ原子力相は、ロシアが今年初めから北極海ノバヤゼムリヤ島の実験施設で核爆発を伴わない臨界前実験を行っていることを明らかにした。これに関連して、イワノフ国防相は、ロシアが批准済みの核実験全面禁止条約に臨界前核実験が抵触しないことを強調し、「今後も実施する」と述べた。（8月10日 毎日新聞）

●ロシアとベラルーシ、06年に通貨統合

ロシアのプーチン大統領は、南部の保養地ソチでベラルーシのルカシェンコ大統領と会談し、両国の通貨統合を2006年1月を目標に実施することで合意した。ロシアの通貨ルーブルがベラルーシに導入されることになる。（8月23日 時事通信）

ドラニキ

ベラルーシでは、ジャガイモがとても美味しい。調理法はいろいろありますが、一番一般的なのがこれです。8月、畑で収穫されたジャガイモとホーローの洗面器大の容器が準備されます。特に日曜日の朝、ゆっくりと、そして山盛りのドラニキが食卓に並びます。いつの間にか、残らず食べ終わっていることに再びびっくりです。

＜材料＞

ジャガイモ・卵・小麦粉・塩少々・オイル

＜作り方＞

1. ジャガイモを洗って、皮をむき、生のまま、すり下ろします。
たくさんのジャガイモをおろし器でするのは、大変です。フードプロセッサーで一気におろしてOKです。
2. ジャガイモの量によりますが、1キロあたり卵1個を割り入れ、小麦粉と塩を少々入れます。
3. フライパンにオイルをひき、直径10センチの薄焼きを作ります。
4. アツアツをサワークリームをからめていただきます。



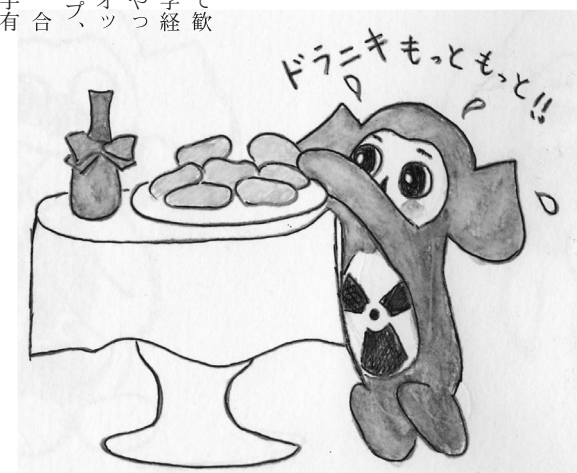
* 薄焼きの間に挽肉とタマネギを炒めた具をはさむと、カルドネ（魔女）になり、ボリュームたっぷりです。



初めはお行儀良くビールなどで飲談していたのですが、ロシア留学経験がある新聞記者の山口さんがやって来たあたりから、飲み物はウオツカならぬ芋焼酎にグレードアップ、あたり一面ロシア語が飛び交い、合気道を学んでいるサーシャと空手有段者の山口さんの武道対決（型だけの）も始まり、ものすごい盛り上がり。学生の頃、剣道部に所属していたという神谷事務局長も、割り箸を剣に見立てて見事な立ち回りを見せてくれました。
こんな盛り上がりを作るとは、ドラニキ恐るべし!!
(事務局・布山)

ドラニキパーティー

サーシャの提案で、ベラルーシからのお客さまワシリー医師とイリヤさんの歓迎のために、「ドラニキパーティー」をJCF事務局三階で開きました。カムチャツカからの留学生アーリヤもお手伝いに。
ところがいざ用意が始まるとワシリー先生自らが焼きたてにまわり、サーシャは鍋奉行ならぬ鉄板奉行、山のようなオイルを使っ、山のようサワークリームを付けて食べるのがベラルーシ流だという。
カムチャツカでも、ロシアでも、ドラニキはブランチの人気メニューだそうです。



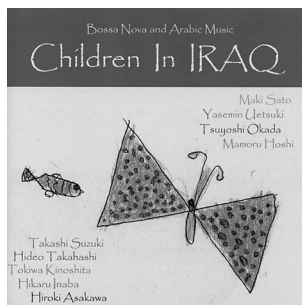
チェチェン やめられない戦争 アンナ・ポリトコフスカヤ



「チェチェン やめられない戦争」
著者・アンナ・ポリトコフスカヤ
訳者・三浦みどり
発行・NHK 出版
定価・2400 円＋税

Book
チェチェンにロシア人女性記者の著者が何度もあり、名もなき人々の声をすくい上げ、複雑に利害が絡む戦争の背景に迫る。そこから見えてくる戦争は、ロシア軍による住民への略奪・強姦・拉致・人身売買であり、反テロ戦争などではなく、ロシア軍による「対市民戦争」である。このような状況下での筆者の勇気と行動は驚異的である。本物のインテリによる真実の本。（林克明）

イラクの子どもたち KUROYON



「イラクの子どもたち」
制作・KUROYON 佐藤真紀
定価・2000 円＋税

CD
ボサノバ、アラブの音楽、そしてイラクの子どもたちの目線から、今のイラクが見えてくる。
（収益金はイラクへの支援活動に役立てられます。）

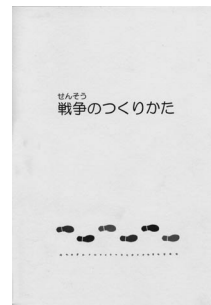
人間であることの歌 ビクトル・ハラ



「人間であることの歌」
OMAGATOKI
(SC-3125)
定価・2718 円＋税

アメリカの同時多発テロから3年が過ぎた。30年前の同じ9月11日、南米の人々にとって忘れられない1973年のチリの悲劇が起きる。民衆の圧倒的な支持を受けていたアジェンデ政権は、アメリカの圧倒的な支援を受けた軍事クーデターによって倒された。民衆と共に歌い続けたビクトル・ハラと4万人の民衆は虐殺された。ハラの美しい歌声に耳を傾けながら、南米の9・11に思いを馳せて欲しい。

戦争のつくりかた りぼんぷろじえくと



「戦争のつくりかた」
文・りぼんぷろじえくと
挿絵・井上サスミチ
発行・(有) タペンス
定価・300 円

Book
『私たちは未来をつくりだすことができます。戦争をしない方法を、選ぶ取ること』タイトルは（戦争のつくりかた）ですが、内容は（戦争のつくりかた）と言えるかもしれません。いまだで戦争をしてこなかった国がいつしか戦争のできるしくみを持つようになる、そのようすが淡々と描かれていきます。しかし、結末には希望もあります。

非戦という希望 星川淳



「非戦という希望」
著者・星川淳
発行・七つの森書館
定価・1800 円＋税

本書の刊行が奇しくも日露戦争からちょうど百年目にあたることを考えれば、当時命がけで非戦を訴えた人びとと、その時代に思いを馳せずにいられない。彼らのラディカルな正気は、情に流される世論と、国家統制に屈するメディアによってかき消され、軍事膨張主義という魔物が半世紀近く跋扈することになった。ふたたび非戦の声を振り切って危うい海外派兵に踏み出した日本——私たちがこの百年で、同じ愚かなパターンをくり返さない知恵を学んだかどうかを試されている。

ファルージャ 2004 年 4 月 ラファール・マハジャンほか



「ファルージャ 2004 年 4 月」
著者・ラファール・マハジャンほか
発行・現代企画室
定価・1500 円＋税

Book
イラクに行くなんて頭がおかしいんじゃないの、と言った人たちが何人かいた。ファルージャに行くなんて、完全に正気の沙汰じゃない、と多くの人がいった。（ジョー・ウィルディング）2004年4月、米軍に包囲されたファルージャに入った英国人と米国人が、インターネットで伝えた「ファルージャ」の記録。



第 61 号

発行日 2004 年 9 月 26 日

発行人 鎌田 實

発行所
日本チェルノブイリ連帯基金

イラスト題字 貝原浩
イラスト 武内裕子
重岡朱

表紙デザイン 酒井隆志

スタッフ 神谷さだ子

布山みな子

重岡朱

佐内裕之

協力 風樹 光
曾根原 豊

■編集後記

今年の 4.26 イベント、「ベラルーシの食卓」でボルシチやオリビエサラダ作りの先生をしてくれたり、先日のドラニキパーティーのお手伝いもしてくれたカムチャッカからの留学生、アーリャとオレーシャが 9 月 27 日に帰国しました。「日本に来てますます日本と日本の人が好きになりました。一度帰っても絶対もう一度、日本に、松本に来ます！」ちょっと目を潤ませて話すアーリャの顔が忘れられません。時々 JCF に華やきをプレゼントしてくれたお二人に感謝！ (布山)

■事務局日誌■

< 7 月 >

- 3 日 映画「ヒバクシャ」上映事前学習会 (Mウイング)
- 9 日 グランドゼロ発送作業
- 15 日 アルプスフロント懇話会
- 16 日 NPO 学習会 (Mウイング)
- 17 日 吉永理事来局・NPO 法人格取得について話し合い
- 20 日 映画「ヒバクシャ」上映実行委員会 (Mウイング)
- 21 日 8 月のアンマン会議に向けて打ち合わせ (諏訪中央病院)
- 29 日 アルプスフロント懇話会
- 30 日 穂高商業高校生ボランティア研修
阿木理事・河合塾生合宿 (8/1 日まで)
- 2,9,16,23,30 日: ロシア語講座

< 8 月 >

- 5 日 ドイツ平和村、ヨルダン・アンマンに出発 (鎌田理事長・神谷)
- 9 日 映画「ヒバクシャ」上映イベント・
「自由な風になってーイラクの友達に絵を描こう」(Mウイング)
穂高商業高校生ボランティア研修
- 10 日 廣浦理事・中野医師アンマンへ出発
- 11 日 イラク医療支援に向けての医療者会議 (ヨルダン・アンマン)
お盆休み (17 日まで)
- 12 日 アルプスフロント懇話会
- 15 日 アンマン会議出席者帰国
- 17 日 ゴメリ医科大学ワシリー医師、イリヤさん、研修のため来松
- 18 日 ワシリー医師、信大医学部長表敬訪問
ワシリー医師、アレクサンダーさん、神谷講演会
(浅間温泉文化センター)
- 19 日 ワシリー医師、信大にて研修
事務局でワシリー医師、イリヤさん歓迎会
- 20 日 ワシリー医師、信大にて研修
- 26 日 アンマン会議でのイラク報告について記者会見 (上野・JVC にて)

< 9 月 >

- 1 日 映画「ヒバクシャ」上映実行委員会 (Mウイング)
- 4 日 映画「ヒバクシャ」上映会場準備 (Mウイング)
- 5 日 映画「ヒバクシャ」上映会 (Mウイング)
- 10 日 NPO 学習会
- 17 日 アルプスフロント市民フォーラム設立総会

JCF/日本チェルノブイリ連帯基金

●本部 〒390-0303
長野県松本市浅間温泉 2-12-12
TEL 0263- 46- 4218 FAX 0263- 46- 6229
E-mail jcf@jca.apc.org
Website http://www.jca.apc.org/jcf/

●東京 〒164-0003
東京都中野区東中野 4-4-1 ポレボレタイムス社気付
TEL03- 3227- 1405 FAX03- 3227-1406
●京都 〒607-8405
京都府京都市山科区御陵田山町 13-3
TEL075- 591- 7772



8 月にイラクの隣国ヨルダンの首都アンマンで医療者会議を開きました。子ども達に白血病が急増しているのにも関わらず、薬品や医療資材が慢性的に不足していると、イラクの医師から聞きました。

会議で見えてきたイラクの医療現場から、今、私たちに何ができるか、鎌田 實 JCF 理事長が報告します。

< イラク支援に関する報告会 >

「鎌田 實講演会 〜いのち・チェルノブイリからイラクの子どもたちへ〜」

●日時: 11 月 7 日 (日) 13 時 30 分 ~ 15 時 30 分

●場所: 長野県庁 講堂

●主催: 鎌田 實講演会実行委員会

●共催: 長野県・長野県教育委員会

連絡先: 日本チェルノブイリ連帯基金

宮本 弘美 080-3208-3267

喜多 英之 026-234-2116

< カタログハウス特別セミナー >

2004 年 11 月 26 日 (金) 午後 6 時半 ~ 8 時半

会場: カタログハウス本社セミナーホール

(東京都渋谷区代々木 2-12-2)

講師: 鎌田 實さん (諏訪中央病院管理者)

●定員: 200 名

●参加費: 1000 円 (イラク医療支援に寄付します)

主催: J I M - N E T

共催: カタログハウスの学校

●お問合せはこちらへどうぞ。

電 話: 0120(545)450

F A X: 03(5365)2278

メー ル: school@cataloghouse.co.jp

